

やまびこ選手権

Echo championship

小 関 伸 哉*
(OZEKI Shinya)

加 藤 沙 耶 香*
(KATOY Sayaka)

篠 崎 彩 乃*
(SHINOZAKI Ayano)

I. はじめに

コロナ渦で以前と比べ、生活が変化した。外出を自粛するようになり、仕事や授業ではオンラインで行えるようになった。それにより、以前よりも増してストレスを抱えている。我々はストレス解消と農業農村地域を結びつけることができないかと考えた。

そこで我々は、人が少ない広大な地という農業農村地域の地の利を活かし、都会ではできない「思いっきり叫ぶ」という体験を提供するという提案をする。

10 II. 概要説明

山の麓で人が叫び、森林の中に音を測定する機器を設置し、誰が一番大きな声を出せるのか競う。また、誰にも言っていない告白や今の思いの丈を叫ぶ部門、歌部門などの部門別にして、表現を楽しむことができようにする。叫んでいる様子は農村ネットワークSNSでライブ配信され、世界中の人が見るようにする。周りに誰もいない場所で叫ぶ声を世界の誰かが聴いているかもしてない。

この大声で叫ぶということを提案した目的はストレスを発散することだけでなく、獣害対策もある。シカやイノシシなどの害獣が人里に下りてくることを大声で抑制する。

III. 実験

1. 実験内容

25 声を出す場所から 10m, 50m, 100m の地点にマイクを設置し、3 回録音した。比較をするために、周りに何も無く開けた運動場と三重大大学の演習林の中で実験を行った。そして、録音した音声の解析を行った。

2. 実験結果

30 実験の結果を以下に示す。運動場の音声を図-1、演習林での音声を図-2 に示す。

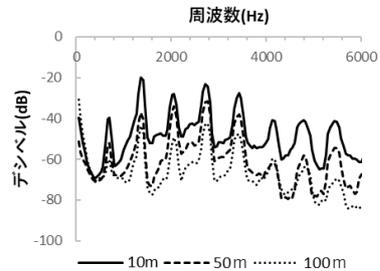


図-1 運動場の音声

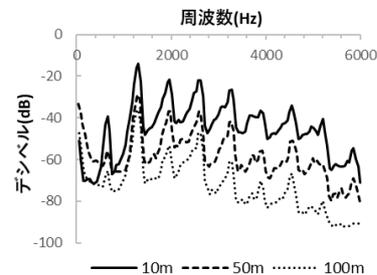


図-2 演習林の音声

実験結果から、50m から 100m にかけて、運動場より 35 演習林の方が値の減少が大きい。ここから、森林のような障害の多い場所では、音は遠くまで届きにくい事が分かる。

IV. まとめ

実験より森林は音が遠くまで届きにくいので、思いっきり叫ぶことができる。

大声を出すことは笑いと同じ効果があり、余命が 1 ～ 2 ヶ月が 3 ～ 4 ヶ月に伸びる可能性がある¹⁾。

また、森林環境への滞在は、交感神経活動の低下、副交感神経活動の上昇、血圧と心拍数・脈拍数の減少²⁾、唾液コルチゾール濃度の低下を示す²⁾。

以上より、やまびこ選手権は人の迷惑にならずに、健康増進に寄与することが期待できる。

参考文献

- 50 1) 松本光正：笑いと健康 君子医者に近寄らず pp. 115～118 (2011)
2) 宮崎良文：自然セラピーの科学 - 予防医学的効果の検証と解明 -, pp. 1～11 (2016)

